

[全体報告会・閉会式]

末松

今から全体会を進めていきます。まず最初に、今までの時間でのサミットでの各分科会での成果報告をしてもらいます。AからIまでの各分科会の成果報告を3分ほどでお願いします。それではAをお願いします。

石野

私たちは、Aグループで、1番の貧困をなくそう、2番の飢餓をゼロに、3番のすべての人に健康と福祉をテーマにして活動していました。1部の報告会では、まずSDGs 1・2・3を選んだ理由と、今までそれぞれが調べてきたことの現状報告、そして私たちがユニセフで行った募金の説明と結果を報告しました。また最後には、貧困クイズもして、楽しく貧困について考えました。次に第2部の協議会の報告です。

福井

第2部の協議会では、「募金の協力者を増やすには」という問いと、「募金が本当に貧困を解決するのか」という問いで協議してもらいました。その中で出た意見をいくつか紹介したいと思います。「募金の協力者を増やすには」という問いに対して、「今の貧困の状況を知ってもらう」や「コンサートやライブの終わりに人がたくさん集まるので、その時に募金を呼び掛ける」や「募金をしたら多くの店で使えるクーポンを渡す」などの意見が出ました。次に「募金が本当に貧困を解決するのか」という問いに対して「する」と思う人と「しない」という人に分かれてもらいました。「する」と思った人の意見は、「一人でも貧困が減るから」などの意見が多かったです。でも全体的に「する」人より「しない」人の方が多かったです。「しない」人で、貧困を解決する方法として、「なぜしないと思うのか」は、アフリカでは今人口が増えてきているので、人口の増加により貧困



の人口も増えると思ったからです。この協議会を通じて私は、貧困を解決していくことは、改めて難しいと思ったし、今3年生が中心にSDGsに取り組んでいるけど、1・2年生たちも一緒に考えていくことで、国連に取り組んでいるSDGsという大きな目標の解決に少しでも近づいていくと思ったし、その募金活動をしているときに若い人のスルーが多かったから、若い人たちがもっとSDGsというものを知っていただくだけでも変わっていくと思いました。

桑本

ゲストとしてユニセフの方が来てくださったので、お話を聞かせていただきました。SDGsは2030年までの目標ということで、あと10年私たちが主役なので、自分たちが考えて行動すべきなので、今までユニセフさんは出前授業などをしていましたが、実際私たちのように、募金をしたんですけど、実際に行動している生徒を見て感動した、すばらしい誇りに思うとおっしゃってくださいました。それで、私たちは世界的な視野をもって、これから、今の子供らが考えていくべきことなので、これからを私たちが創っていくべきだと思います。私が協議会を見て感じたことは、3年生もまだ完璧ではないですが、まだ1・2年生は自分事のように思っていないという風を感じたので、私は4月からもっとSDGsの活動をしようと思うので、もっと他人事ではなく自分事のよ

うに考えて、自分たちから行動してどんどん学んでいってほしいと思いました。

石野

私も協議会をやってみて、正直、募金が貧困の解決につながると思っていたのですが、募金をすることだけでそもそもの貧困が解決するわけではないことに気がつきました。そして、私たちは貧困について主に調べましたが、それだけでも2030年までのあと10年間で、解決するには大きな目標だと改めて感じました。また、1・2年生や外部の方と一緒に協議する中で、自分たちが考えていたことよりも、もっといろんな意見が聞けて、深められたと思います。1・2年生はSDGsを来年もやると思うので、今日の協議会がヒントになればと思います。以上です。

ありがとうございました。次に分科会Bの人をお願いします。

田中宏

まず僕たちのグループでは、貧困についていろいろ話してきたんですけど、相対的貧困と絶対的貧困の違いや、難民と国内避難民の違いなど、皆さんが知っている言葉だけでなく、もう少し詳しい言葉も知ってもらって、少しでも貧困について皆さんに興味を持ってもらって、少しでもそういう活動に興味を持ってもらって、そういう人が増えたら、貧困への解決につながると思いをさせていただきました。話を聞いてくれた人の中には、そういうことに興味を持ってくれた人も聞いただけでも普通にいたそうなので、貧困への解決に一步近づいたのではないかと考えています。



岸

自分は、教育が行き届いていない国へ、質の高い教育を届けるという活動をしていまして、最初は自分本位で考えていたので、そんなに行き届いていないとは考えたことはなかったんですけど、紛争とかで学校に行けていない子どもたちがまだいると知って、まだまだあまり社会に目を向けられていないなど。だけど、この活動をしたことで、自分にもできることがあって、そう実感できたことが、自分にとってうれしいと思いました。

南志

私たちのグループでは、児童労働について活動をしました。教育に元々興味があったので、調べていくうちに、ACEという児童労働の子どもを保護するという団体を見つけて、そこに自ら街頭募金をして、その集めたお金を、そのACEという団体に寄付しようということで、この前の土曜日に街頭募金をして、皆さんのおかげで、41083円ためることができました。このお金をACEに募金して教育を受けたくても受けられない子どもたちを減らせたらいいなと思いました。今日、中2の国連大使の方に来ていただいて、いろいろお話を聞かせてもらって、自分にできることは何かということをおみんなで最後に話し合ってもらった結果、外国でやっているそのSDGsの活動を日本でもやるとか、買い物をしているときに自分で買い物袋を持参するという意見が出ました。それを踏まえて、皆さんも聞いて終わるのではなくて、実際に自分でも行動して、やってほしいなと思いました。以上です。

分科会Cの皆さんよろしくお願ひします。

加藤杏

私たちは、2番の「飢餓をゼロ」にというのと12番の「つくる責任つかう責任」という目標で活動していました。今日の分科会では、「つなげる ～飢餓と食品ロスを減らすために～」というテーマで、報告と協議をしました。

中西

最初は世界の飢餓についていろいろ行動してみようと考えていたんですけど、私たちの行動で、世界を変えることは難しいということをおもったので、身近な飢餓や食品ロスを減らすためにできることを私たちが考えようとおもいました。それで今日は、一番私たちの身近である給食について考えました。給食の食品ロスを減らすために話し合っ、それで出た意見は、給食を作る過程を知ってもらっ、その給食を作る過程の動画を見て、ありがたみを知っ、給食の食品ロスを減らすという



対策や、汁物のメニューといろんなものが混ざるとおいしくなくなるので、メニューの組み合わせを変更したりするという意見が出ました。その意見を給食センターの人に伝えてもらっ、改善できるようにお願ひしました。そもそもそういうシステムを変えることが大事だと思うのですが、それでもまだ自分たちが、消費する側として、食品ロスが出ないように、日ごろの給食や家での食べ物とかを家で食べるときに食品ロスが出ないようにすることが大切だとおもいました。

加藤杏

子ども食堂についてです。枚方市のフードバンクの活動をしている「子ども食堂ファンクラブ」というところの流れを説明してもらいます。「子ども食堂ファンクラブ」というものがあって、それが食品ロスなどの食べなくなった食品を、子ども食堂につなげるような役割をしているのですが、つなげるところの過程を説明してもらいます。

「ひらかた子ども食堂ファンクラブ」の代表

皆さんこんにちは。僕はNPO法人「ひらかた子ども食堂ファンクラブ」というところから今日はお誘いを受けて来ました。子ども食堂のことについて考えていただいて、その中で食品ロスがあるというところで、僕たち「子ども食堂ファンクラブ」のことを知ってもらっ、声をかけてもらったのですが、「子ども食堂ファンクラブ」は何をしているのかという、枚方市内には「子ども食堂」が20か所以上あります。そこを運用している中で、食品を調達するのが、地域のボランティアの方とか限られた予算の中で調達するんですけども、なかなか思ったように食材を手に入れることができなかつたりすることがあります。そこで企業の方に僕たちのことを知ってもらっ、フードロスをなくしてもらおうんです。企業であつたり個人であつたり農家の方であつたり、様々な人たちがいますが、その方々でも、毎日食品ロスが出るわけではありません。そして私たちも毎日子ども食堂をしているわけではありません。多いところで週1回ですが、月1回とか2回ぐらいのところはほとんどなので、そこと食品ロスをマッチングさせるために僕たちは活動して、こんな

があります、こういうものを使いませんか、というものを企業さんに取りに行っって子ども食堂に運んだりとかという活動をさせてもらっています。みんながこの活動のことを知ってもらったら、もっともっといい食材が集まったり、フードロスがなくなる一助となるかなと思い参加させていただきました。ありがとうございます。

加藤杏

このようなことを、もっといろいろな人を助けたいと思っている人や、企業に知ってもらえたら、もっと子ども食堂に食材がいくと思ったので、それをつなぐ方法として、SNSを使えばいいのではないかという結論になりました。それと私たちは「くらこん」と「ミネヤ食品」という枚方市内に工場がある企業と「子ども食堂ファンクラブ」とをつなげるために、資料をもって行ってこれからも話し合っていきたいと思います。これで終わります。

続いて分科会Dのグループの人よろしくお願ひします。

谷口紅

私たちは、主に「貧困について」と「すべての人に健康と福祉を」というテーマで話をしていました。第1部は、「世界の貧困について」の話と「健康と福祉」と「ワクチン」の話をしました。私が感じたことは、この問題は自分たちだけの問題ではなくて、世界のいろいろな人たちの問題だし、一人では解決できないから、一人一人のSDGsに対する意識とか協力が一番大事なんだなと感じました。



千葉

2部では、JICAさんとJCBさんに来ていただいて話をさせていただいて、ワクチンのことなどについて深く話していただきました。そのあとの全体会のところでは、活動によって子どもたちにどのような成果があったのかという質問で、書くだけの授業をしている学校などで、実験などをして体験することで、楽しみと学びを深めることを知るということを学びました。

つづいて分科会Eの皆さんよろしくお願ひします。

山口

私たち分科会Eでは、5番の「ジェンダー平等を実現しよう」と10番の「人や国の不平等をなくそう」というのを中心に、「Love Beyond Genders」というテーマを掲げて、いろいろやってきました。ここでは、LGBTの権利を守るためにできることは何か、そもそもLGBTとは何なのか、みんなにLGBTのことについてもっと知ってもらうために広めるということについて、主に考えてきました。

石浦 怜

私たちは、校長先生からの勧めもあって、井上鈴佳さんというレズビアンの方で、各県で講演をしている方にお話を聞きに行きました。そこで学んだことや LGBT の人に対する対応や今の現状について発表をしました。今の現状というのは、枚方市ではパートナーシップ制度という制度をやっていて、それは LGBT の人が安心して暮らせるようにという目的で作られたカードで、そのカードを持っている人は、同性の人と暮らしやすい、という目的です。協議会では、LGBT の人が安心して暮らせるためには、具体的にどういうことなんだろうと考えていたんですけど、LGBT の人への支援で、「差別はしない」という表明が必要だという意見もあったり、トイレが男女で違う



から、多目的トイレを増やすという意見もあったんですけど、その多目的トイレを作ることによって、LGBT の人を差別するのではないかという意見もあったり、LGBT を差別をしないという党もあるんですけど、その党に投票するという意見もあったんですけど、それもまた LGBT を特別扱っているから差別になるということもあって、たくさんの疑問が生まれたんですけど、最終どうすればいいのかたどり着けませんでした。でも、1年生2年生とかいろいろな方に LGBT のことを知ってもらったので良かったです。

今西

感想なんですけれども、トイレのこととか、自分では思いもよらない視点を生徒の人たちやゲストできていただいた方たちから与えてくださったので、今回のことを深く考えて次につなげていきたいと思います。これで終わります。

続いて分科会 F です。よろしくお願いします。

平山

僕たちは、「ICT」と「経済」と「陸の豊かさを守る」というテーマで発表しました。まず「ICT」においては、NTT に質問したことなどを発表し、「経済」は新しい自動販売機の設置などによる経済の発展、そして「陸の豊かさ」では新たな発電方法などにおいて安全性などの評価をし、陸の農園を放射能汚染などを解消しようという発表をしました。



大崎

第2部の協議会では、ゲストとして大阪府立大学工業専門高等学校の土井先生と JICA のマンマーで活動されているらっしゃる大前さんを招いて協議会をしました。内容としては、まず国内の状況についてと、マンマーの状況について、マンマーの状況なんですけど、マンマーはまだ経済が発達していないということで、パソコンとかの高価なものが買えないという問題があって、でもその代わりスマホとかを1人1台持っていて、そこは使い慣れているという

状況があることを知りました。まず私たちがすべきことというのは、コンピュータというものがどうゆうものかということをも具体的に知ってほしいという議論になりました。どういう仕組みで動いているのか、話題になっている人工知能について、共に生きていくためにはどういうことをしなければならないのかということを考えてほしいという意見が出ました。また、ツイッターなどの SNS を使う上で気をつけることは、炎上した人のコメントを見ると、言葉にとげがあったり、顔を見合わせていないからそういう過激な言葉を使ったりするけど、しっかりとコメントをする際には、目と目を見て話しているように、相手が目の前にいるように感じてコメントしたらいいのではないかという意見がありました。最後に、ICT というのは電気がないと動かないものが多いんです。なので、災害とかになると停電とかして ICT が使えなくなって、もし情報源を手に入れようとしても、簡単に手に入れられなくなります。ですので、ラジオとかまたは何かを伝えるときは、しっかりと紙とペンでいろんなことができるように、ICT を使う前にまずは自分たちが使いこなせるようにしておくという意見をいただきました。以上です。

次は分科会 G です。

濱高

Gグループでは、13番の「気候変動」、14番の「海の豊かさを守ろう」、15番の「陸の豊かさを守ろう」について、報告や協議会をしました。第1部では活動内容や今の現状について発表しました。活動内容では小学校にポスターを張ったり、船橋川の清掃をしたりしたことなどを発表しました。今の現状では温暖化などで食べ物が減ったり、気候が変化することによって動物がすめなくなったりしています。14番と15番ではプラごみについて報告しました。現状は30年後にはプラごみが魚の量を超えるそうです。第2部の協議会では、現状を知ってもらうためにすることについて考えてもらいました。そこで出た案が、インターネットという意見が多くて、インターネットの中でもインスタやツイッター、SNS、ユーチューブなどがあって、僕たちはユーチューブについてピックアップしました。ユーチューブでは海を綺麗にしてみたとか、やってみた動画をしたら視聴者が増えていろんな人に広がっていくけど、ユーチューブはまだ若者しか使っていないので、年配の方に伝えるためにテレビや新聞などを通して広めていけば幅広い年代の人に知ってもらえるというのが出ました。また、浅利さんやパプアニューギニアの人たちとビデオ通話を通して参加していただきました。そこではいろいろな意見を聞いて今後につなげていきたいと思いました。最後に、たまに船橋川の清掃をしたりするので、見かけたらぜひ参加してください。以上です。



分科会Hの皆さんです。

横田

私たちのチームでは、11番と13番、14番、15番について調べました。1部では地球温暖化で気温が高くなることで様々な問題が起きているということ、今の海や陸の現状などを知ってもらったり、私たちが冬休みに活動した船橋川を掃除するなどのことを発表しました。第2部では、私たちが世界の豊かさを守るために、何をすべきかを、このままだと世界はどうなってしまうのかを交流しました。みんなでもできることは、例えば教室を出るときにこまめに電気を消したり、水を使わないときはしっかりしめるという意見をいただきました。そういう意見を聞いて、今後自分も地球を守る活動をしていきたいなと思いました。これで終わります。



続いて分科会Iの皆さんです。

中

グループIです。僕たちのグループでは、主に2つのテーマがあり、一つ目は「気候変動と地球について」、2つ目は「町のごみと貧困について」です。第1部では各グループの発表を行い、その中で、どのようにしたら町の中でポイ捨てをする人たちが減るか、今どのような問題が町にあり、それを解決するためにどのようにすればいいのかなどを話し合いました。そして第2部ではそれをもっと深く話し合いました。



竹本

第2部で話し合っ、僕たちがいっぱい呼んで人が来てくれたので、僕たちの「環境と貧困について」のテーマで、途中質問や交流を交えながら、Iに来てくれた人たちと一緒に考えることができました。「貧困」で募金することがなぜ大変なのかとか、1円募金するだけでどれだけの影響力があるのかや、それを交流して、ごみの換金でそれが少ない換金額だったけど、換金することが大事で、その換金したお金は少ないけれども募金して、その募金したお金の使い道がどのように使われるのかを、途中笑いも交え、学びも交えながら交流していきました。そしてユニセフから来てくださったゲストの人からもアドバイスをいただいたり、感動したというお褒めの言葉もいただきました。それで僕たちの発表を交えて、また2年生は3年生になって、1年生が3年生なったときに、もっとより深くSDGsについて追究して、また新しく入ってくる1年生、2年生に影響を与えて、またどんどん発展して行ってほしいなと思いました。以上です。ありがとうございました。



末松

それでは次に質疑応答に入ります。今の分科会報告で何か質問のある方ありますか。ありましたら挙手をお願いします。

末松

次に今日行われたサミットの全体の感想をいただきたいのですが、どなたか感想のある方おられますか。ないようなので、こちらからあてさせていただきます。

1年男子生徒

今回のSDGsサミットでの感想は、世界ではいろんな問題があって、それについて今後自分たちはどうしていけばいいかを結構詳しく知れてよかったと思います。



枚方市役所環境保全課 広瀬さん

本日は地球温暖化のテーマの班からお招きいただいて参加させていただきました。皆さんの発表、成果報告を聞かせていただいて、すごいそれぞれ皆さん熱心に調べておられて頼もしいなと思って見ていたんですけども、「貧困」だったり「教育」だったり皆さん調べてお気づきかなと思うんですけども、こうしてゆっくりきちんと調べて学べる環境、実はとっても貴重だということに気づいていただけて、それぞれみんな興味を持ったことを深く深く調べてもらえて、すごいいい機会だったのではないかと思います。これからも皆さん高校生になられて、どんどん大きくなって大人になっていかれると思うんですけども、ぜひこの機会のことをきちんと覚えて、立派なSDGsを推進してくれる方になっていただければと思います。ありがとうございました。



1年女子生徒

世界にはいろいろな問題点があって、自分が前までは全然興味持っていなかったようなことを3年生は調べたりして、それでいろいろ興味が持てたし、いろいろ分からなかったことも学べたので、話が聞けて良かったと思いました。



3年男子生徒

3年でSDGsについて半年間調べていろいろ知れたんですけど、知っているだけでは意味がないので、自分たちができることをどんどん行動して、世界に出るために行動していこうと思いました。



2年生徒

今日のSDGsサミットを通して、世界の中にまだまだ困っている人がいると聞いて、これから僕もSDGsのことをよく知って、行動にあらわしていきたいと思いました。



寝屋川市立第一中学校 大原校長先生

山本校長先生に、一昨日来ないかと言われてきました。大変勉強になりました。一番感心したのは、3年生の皆さんが卒業や受験の前に、これだけ真剣にSDGsについての、今日のイベントもそうですけれども運営しておられる姿に感動しました。また、1年生、2年生も頑張ってください。

子ども食堂ファンクラブ 磯島さん

SDGsについて、僕自身も勉強している状態です。実際、大人たちより子どもたちの方が詳しいという現実はわかっているんですけども、これからどんどん中学生の皆様からSDGsを走んじていってもらえればなと思います。皆さんお疲れさまでした。



大阪府立牧野高校 日笠校長先生

Bの伊藤ゆなさんから電話をいただいて、来てほしいということだったので、14歳の生徒が直接校長に電話してきてそれも感心して来させていただきました。話を順次聞かせていただきましたけれども、本当に皆さん素晴らしい活動をして、行動もして考えもしてやってきたということが未来につながっていくものだと思います。SDGsは2030年までの目標ですけれども、皆さんが生きていくのは21世紀、たぶん終わりまで生きていく。世界にたくさん問題があることは2030年にかたずくわけではなくて、その先続いていくということも知っておく必要があるし、知った問題に関してどのように解決していこうかということは教科書に載っていないので、自分の頭で考えみんな議論して前に進めていくのも大事。サステナブルというのは持続可能性ということなので、皆さんが今やっていること、ぜひ持続して行ってほしいなと思いました。ごくろうさまでした。



竹本

これで今回のサミットは終わりますが、まだこの場を借りて伝えたいことがある方はおられますか。ではこのまま閉会式に移ります。閉会のあいさつを校長先生よろしくお願いします。



校長

はっきり言って、今言葉を失っています。みんなの頑張りとか1・2年生とか、集まっていたいただいた素敵な大人の皆さんと同じ時間を共有して、SDGs のことで、いろんな課題について考える時間が持てたということについて、私も非常に感謝しております。今の3年生に、私もいろんなことを教えてもらいました。学ばしてもらいました、感じさせてもらいました、いい時間だったなと思っています。このSDGs については答えはないわけなんですけど、目標は決まっていますけれども。達成できるかどうかはわかりませんが、行動を起こして、とにかく行動を起こすことで気づいて、素敵な大人とか素敵な皆さんとつながり、そして自分の生き方を創っていくと、まさしくテーマですね。「気づき、つながり、創り出す」ということが実践されたい時間だったともいます。今日はどうもありがとうございました。最後にグループの中で目を合わせて「ありがとうございました」「お疲れさまでした」と言い合ってください。どうぞ。



末松

それでは最後に司会から少し話させてもらいます。私たち3年生がSDGs を取り組むにあたって、やっぱり最初はたくさんの壁がありました。例えば受験やったり、中学生しかできないことやったり、限られた時間、例えば体育祭や文化祭の練習のなかでもSDGs についてやっていくことの時間、限られたなかでやっていかなければならないというたくさん壁がありました。また、最初はとっても遠くのことを見ている、アフリカのことであったり、自分たちよりも遠くのことを考えていたんですけど、先生たちに言われて、ぜんぜん周りを見れてない、例えば同級生が困っていてもそういうところが見れていないとかそういうことを言われて、SDGs というのは、遠くの人たちのことも考えないといけないけれど、まずは自分たちのことをしっかり見ていく必要があるなということ、このSDGs を取り組んでいて感じさせられました。また、冬休みにアクションプランをみんな実行しているんですけど、やっぱりでもやってみて、例えば私たちでいうと、レジ袋を削減しようと言っていて、レジ袋削減するのは簡単やからやっていこ、そしたらどんどん減らせるみたいな気持ちもあったんですけど、やってみて、例えばレジ袋は減らした、けどごみ袋は足りなくなってきたから買わなあかん、みたいなふうに、レジ袋一つ減らすのでもやっぱりなかなか減らせない理由があったりというのも、この冬実行してみてわかったこともたくさんありました。今日のテーマの最初にも言ったように、今より一つ前に進むというのはなかなか難しいことで、簡単にできることではないんですけど、今日の報告会を通して、一人一人が今わたしたちがやらないといけないなということを感じれたと思います。3年生は一度ここでSDGs の取り組みは形としては終わりですけど、ここで終わりではなくて、ここから10年をどう過ごしていくか、高校に入ってからもうどういふふうにSDGs につなげていくかというのが大切になると思います。このSDGs の目的である、持続可能な社会、私たちが今後住んでいく社会というものをどういふ風に考えるのかというきっかけにもなったと思います。今日は皆さんの力もあって成功できたこの会だと思います。3年生はお疲れさまでした。1・2年生や保護者の方もたくさんのご意見をいただきありがとうございました。

山本穂

今日のこの会を通して、自分も調べてなかったことや新たな発見を知ることができて、本当に、いい機会、いい経験になったなと思います。この夏から半年間ぐらいSDGsについて3年生は取り組んできて、いろんなぶつかりもあったと思うんですけど、よくここまで来れて、本当に良かったと思います。自分は報告会であまり話すことはできなかつたんですけど、それでも周りの参加してくれた方々のおかげでここまでできたので、ありがたいです。今日は本当にありがとうございました。

崎島

3年の最初の方からSDGsをやらしてもらって、最初の方は、「なんでこんなにやらなあかんねん、だるいわ」しか思ってなくて、とくにSDGsの時間とかは、しゃべっているやつとかなんもやっていなかったやつが多かったけど、どんどん周りがちゃんとやりはじめてからは、なんか、自分の、みんなでやるんじゃないかって、一人一人がやることをどんどん見つけていって、それがSDGsに向かって一緒に行っているんじゃないかと思います。最初は絶対楽しくないと思うし、「なんでこんなにやらなあかんねん、俺らがこんなにやっててもしよーがないやん」と思うかもしれへんけど、なんかやらな、誰にも見てもらえへんし、こうやってたくさんの人とか保護者の人とかに来てもらえて、ましてテレビなんか、俺らすごい幸運やと。絶対、普通にやってるだけじゃ来てくれへんかったから、こうやって形となって出たんじゃないかと思います。だから1・2年生にも「なんで俺らが、なんで私らが」じゃなくて、最初は難しいかもしれんけど、自分たちができることを一つ見つけてそれを一生懸命やるだけでも、地球の未来が少し変わるんじゃないかなと、僕はこのSDGsを通して感じました。だから、1・2年生もやると思うし、頑張ってください。なんで、頑張ってください。ありがとうございました。

竹本

もうこの3人にいいところを全部言われてしまったんですけど、僕が言っておきたいのが、今回のSDGsサミットで、少しでもSDGsに興味を持ったという人手を挙げてください。ありがとうございます。こんなに挙げてくれたということは、僕たちのこの行動というのはしっかりと1・2年生に伝わって、これからも、また次の世代、次の世代と伝わって、それがどんどん世界を変えていくと思うし、このSDGs全部の問題が、人ひとりのやさしさでなくなると思います。だから、しっかりと、勉強することも大事やけど、その「やさしさ」「思いやり」というのを、毎日、その人に、なんか悪口とかいうときもあるかもしれないけど、そういうときに、このSDGsサミットを思い出して「思いやり」が大事だなということをしっかりと心に刻んでほしいと思います。それで、また次の世代、次の世代と続いていくと言ったけれども、それが途絶えないように1年生、2年生、しっかりとSDGsを調べて欲しいし、またゲストを呼ぶというふうに僕たちはしたけど、こんどはまた現地に行くとかもっと深めたらいいと思うんで、これからも頑張ってください。また、ゲストの人たち、来てくれた人たち、本当にありがとうございました。以上です。

末松

最後に閉会宣言です。

崎島

これで「招提北中学校SDGsサミット2020」を閉会します。

竹本

バキューン、バキューン

